

令和5年度三重県立飯野高等学校 定時制 学校マネジメントシート

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○地域から愛され信頼される学校
(2)	育みたい 児童生徒像	育成をめざす資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー) 1 自分と他者の違いを認め、自分を大切に、他者を思いやることのできる生徒 2 基礎基本の力を身に着け、信頼される社会人として地域に貢献できる生徒 3 あいさつをはじめ、他者と適切なコミュニケーションがとれる生徒
	ありたい 教職員像	○生徒一人ひとりが自らの目標に向かって真剣に取り組むことができるよう、生徒のよき理解者となり、適切なサポートができる教職員 ○学習指導や生徒指導などの指導力向上をめざして、ともに学びあい学び続ける教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<b>【生徒】</b> 確かな学力の確立と進路実現 <b>【保護者】</b> 学校からの丁寧な情報発信 <b>【地域】</b> 地域に貢献できる人材育成
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	〈保護者〉 高校卒業後の進路実現 〈中学校〉 不登校経験者や外国人生徒等、多様な生徒の受け入れ 〈企業等〉 社会人としての基礎力の養成
	連携する相手への要望・期待	〈保護者〉 本校の教育活動に対する理解と協力 〈中学校〉 学校生活に適應できる生徒の育成及び情報共有 〈企業等〉 在学中の雇用と卒業時の正規雇用
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時制に学ぶ優秀な人材を社会に送り出す重要な役割を担っている。そのため生徒が安心して社会に出られるような環境整備が必要になる。時間はかかるかもしれないが、地元企業や鈴鹿商工会議所とも連携して、インターンシップや体験活動等の充実を図る必要がある。</li> <li>・定時制は全日制に比べると教員数が少ないので、鈴鹿市内の経験豊かなシニア等の外部人材を活用できるようなプログラムづくりも必要になるのではないかと。多様な人材の活用により、更なる教育の充実を目指してもらいたい。</li> <li>・様々な背景や事情を持った生徒を幅広く受け入れている。入学した多様な生徒たちの経験や思いを中学生に話す機会をもっとつくってもらいたい。そうすれば鈴鹿市内の中学生も将来に向けて夢を描くことができるようになるのではないかと。</li> </ul>
(4) 現状と課題	教育活動	地域の定時制高校の拠点として、働きながら学びたい生徒、不登校経験のある生徒、学び直しをしたい生徒等、本校に対する多様な期待をもって入学してきた生徒に対して、一人ひとりの状況に応じた教育を行っている。こうした丁寧できめ細やかな教育を通じて、成果、実績を積み重ねてきており、地域からの期待、信頼は厚い。 一方、一部の生徒には、家庭の事情により学校を休みがちになったり、進路変更を余儀なくされる生徒がいる。こうしたことから、関係機関及びSSW等の専門員と連携しながら、当該生徒が学校生活を継続できるよう支援する必要がある。

学校  
運営等

一人ひとりの生徒の課題に応じて、教職員がきめ細やかな対応ができています。教職員数が少ないため、教職員間の情報共有が進む一方、校務分掌においては、一人で複数の分掌を担当するなど、独自の工夫が必要である。

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒一人ひとりの進路実現をめざし、基礎・基本の定着を図る</li> <li>2 人とのつながりを大切にし、コミュニケーション能力の育成をめざした学習活動の推進</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業規律や出席を重んじるとともに、学習意欲を向上させ、安心して登校し落ち着いて学習に取り組むことができるよう生活・学習の両面から支援し、学力の向上を図る。</li> <li>② 自他を尊重する人権意識と自己有用感を高め人間関係形成能力を育成する。</li> <li>③ 進路保障の充実を図る。特に外国人生徒の進路保障に向けて一層強化する。</li> <li>④ 特別支援体制の充実や個に応じた生徒指導を推進するために外部との連携を取りながら効果的な支援体制を構築する。</li> <li>⑤ 地域教育力の導入及び生徒が地域や小中学生と交流を行うなど、地域に目を向けさせ、地域に貢献できる人材を育成する。</li> </ol>
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒や保護者にとって安心安全な教育環境を整えるために、適切な情報管理と生徒・保護者のニーズの把握を行う。</li> <li>② 生徒、保護者、地域へ教育内容を積極的に情報発信して、定時制生徒への理解と協力を深める。</li> <li>③ 生徒の多様なニーズに応えるため、JSLカリキュラムや特別支援教育に関する研修等を推進して、教職員の専門性や指導力の向上を図る。</li> <li>④ 生徒の学習意欲や学力向上のために相互参観や研修を行い、授業力向上を推進する。</li> <li>⑤ 教職員が充実した業務を行うため、総勤務時間の縮減や職場の環境整備に取り組む。</li> </ol>

#### 4 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
① 授業規律の確立、学習意欲の向上、安心して学習に取り組むことができるための生活学習の両面からの支援、学力の向上のための取組  (生徒指導) (保健指導) (学習指導)	(1) 規範意識の確立 【活動指標】 校内、校外の巡回指導を実施 【成果指標】 問題行動による特別指導件数年間10件以下	(1) 適宜校内、校外の巡回を実施 問題行動 3件	
	(2) 基本的な生活習慣の確立 【活動指標】 保健だよりによる啓発、年間10回以上 【成果指標】 生活アンケートにおいて、「朝食をとる」50%以上	(2) 保健だより ・年間10回発行達成 ・12月実施のアンケート結果「朝食をとる」41%	◎
	(3) 学習意欲の向上・授業を大切にす意識づけのための取組 【活動指標】 校務支援システムによる出欠管理と日常的な出席促進指導 【成果指標】 ①個人面談実施率90%以上 ②年間授業出席率70%以上	(3) 個人面談長期欠席者以外全員実施 100% 12月終了時点授業出席率71.3% 年間授業出席率	※
	(4) 基礎学力の向上・わかりやすい授業のための工夫 【活動指標】 ①授業公開、授業改善日を設定し(年間5日)、 ②生徒からの授業評価を実施 【成果指標】 生徒の授業内容の満足度評価「4」(4段階評価)70%以上	(4) 満足度評価「4」 69.1% 「3・4合計」 94.2%	
	(5) 授業規律の確立 【活動指標】 ①非常勤講師も含め、出席・授業態度等の授業規律について教員間で意思統一を図り、全教員で一致して指導を行う ②学びノートの活用と定着 【成果指標】 単位修得率90%以上	(5) 前期単位修得率 88.2% 後期単位修得率 88.7% 年間単位修得率 88.6%	

<p>② 自他を尊重する人権意識と自己有用感を高め、人間関係形成能力の育成</p> <p>(人権教育) (生徒指導)</p>	<p>(1) 自他を尊重する人権意識や自己有用感に裏付けられた自尊心の涵養</p> <p>【活動指標】 面談による個人相談を年5回実施</p> <p>【成果指標】 いじめ発生件数0件以下</p> <p>(2) 命を大切にする教育の充実</p> <p>【活動指標】 アンガーマネジメントやセルフコントロールトレーニング・人権を大切にするをテーマにした講演会やワークショップを前期、後期各1回以上実施する。</p> <p>【成果指標】 生徒アンケート安心・安全満足度85%以上</p> <p>(3) 人間関係形成能力の育成</p> <p>【活動指標】 なかまづくりを目的とした学校行事を年4回実施</p> <p>【成果指標】 アンケート調査における満足度80%以上</p>	<p>(1) 5・7月に個人面談、9・10月に三者面談を実施。</p> <p>いじめの発生件数1件</p> <p>(2) 後期「総合的な探究の時間」性教育講座1回実施(命の大切さについて)</p> <p>(3) 体育祭、文化祭はコロナ禍前の内容で開催することができた。生徒会役員が積極的に取り組んでいることから参加生徒も増えている。</p>	
<p>③ 進路保障の充実</p> <p>(進路指導)</p>	<p>(1) 個々の生徒のニーズに応じた求人開拓</p> <p>【活動指標】 企業訪問および企業説明会での対応企業数80社</p> <p>【成果指標】 ①学校斡旋による就職希望者全員の正規採用の実現</p> <p>②卒業予定者の就職希望の求人充足</p> <p>(2) 学校斡旋就職者の定着</p> <p>【活動指標】 追跡調査を定期的実施し、早期離職者などを把握</p> <p>(3) 「総合的な探究の時間」での実施を主とした進路指導のプログラム化とリアルな職業観・勤労観を育成するキャリア教育(社会人基礎講座)を計画的に実施する。</p> <p>【活動指標】 キャリア教育・社会人基礎知識の指導講座、体験型学習等を年間5回以上実施</p> <p>【成果指標】 振り返り(アンケート)を行ない、生徒の意思を汲み取る。</p> <p>(4) 進学希望者の進路実現ための取組</p> <p>【活動指標】 進学希望者の進路実現のための受験科目の教科による個別指導の実施</p> <p>【成果指標】 進学希望者の合格率100%</p>	<p>(1) 対応企業 89 社、学校斡旋による内定者6名。</p> <p>(2) 追跡調査の結果 88.8% 定着 (R4年度内定者)</p> <p>(3) 進路指導関連の総合学習指導を3回実施した。</p> <p>(4) 進学は一般選考で高等技術学校1名合格。専門学校1名合格。</p>	◎

<p>④ 特別支援体制の充実、個に応じた生徒指導を推進するために外部との連携や効果的な支援体制の構築 (特別支援教育) (生徒指導)</p>	<p>(1) 学校の構造化を推進し、教育環境を整えながら合理的配慮の提供方法を検討する。 【活動指標】 授業担当者会議、ケース会議の開催 【成果指標】 支援を要する生徒の「個別の教育指導計画」100%作成</p> <p>(2) 関係機関と連携した生徒指導の充実 【活動指標】 SSWや関係機関との連携による個々の生徒に応じた適切な生徒指導、支援を行う。 【成果指標】 生徒指導、支援を必要とされる生徒の減少</p>	<p>(1) ・100%作成見込み</p> <p>(2) 関係機関、SSW・SCとの連携、特別支援コーディネーター、養護教諭との情報共有を密に実施。生徒に応じた対応をしている。</p>	◎
<p>⑤ 地域に貢献できる人材を育成するために、外部教育力の導入及び生徒による地域交流 (地域連携)</p>	<p>(1) 地域人材を活用した講演会やワークショップの実施 【活動指標】 講演会等の月間1回以上の実施 【成果指標】 振り返り(アンケート)を行ない、生徒の意思を汲み取る。</p> <p>(2) 地域奉仕活動 【活動指標】 地域清掃奉仕活動を年間1回実施 【成果指標】 在学生徒の80%以上が参加</p>	<p>(1) 総合的な探究の時間等で地域人材を活用した講演会等を行った。 (2) 6月に地域清掃活動を実施。参加率87%</p>	◎

#### 改善課題

- ・生徒の中には不登校経験者も多く、自ら自分の将来に対する明確なビジョンを持ってないことが多い。そのため早い段階から授業や進路学習等で就職・進学に向け意識付けを行っている。7月に実施した企業・大学見学会には新1年のほとんどの生徒が参加した。今後もアルバイトの斡旋等、生徒が自分自身の適性を把握出来るような経験や学習活動を積極的に提供していくことが重要になる。
- ・一人一台の学習端末やICT機器等の学習環境の整備が進み、ユニバーサルデザインを意識した学習指導について、個々の教員が工夫して取り組むようになった。これからは主体的な学びの推進に向けて、生徒の興味関心・意欲を引き出す授業づくりとともに、習得した知識を活用して「何ができるようになるか」まで発展させることを意識した学習活動に転換していくことが求められる。
- ・ソーシャルスキルや社会適応力の育成については、特定の学習活動に限らず、学校の教育活動全体を通して取り組む必要がある。また、個に応じた支援やきめ細かい指導の取組が充実しているので、引き続き外部機関および外部人材との連携も含めた対応を推進していく必要がある。
- ・授業規律や学習活動への取り組み等、生徒が自らの行動を主体的に律することができるよう、生徒の行動変容を促す指導を一層充実していくとともに、生徒が育つ学習集団の育成を目指していきたい。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
① 教職員や生徒、保護者にとって安心安全な教育環境の整備・適切な情報管理 生徒・保護者のニーズの把握 生徒・保護者・地域への情報提供  (情報管理) (服務遵守)	(1)生徒・保護者のニーズの把握 【活動指標】 生徒・保護者アンケートの実施 年間1回 【成果指標】 アンケート結果から生徒・保護者の意思を汲み取る。  (2)生徒・保護者・地域への携帯メール、学校HPでの情報提供 【活動指標】 年間15回以上実施 【成果指標】 携帯メール、学校HPの利用率80%以上  (3)学校情報や個人情報の適切な管理・服務遵守のための取組 【活動指標】 ①情報管理状況点検 年間1回実施 ②コンプライアンス研修 年間1回実施 【成果指標】 点検結果等  (4)安全点検の実施 【活動指標】 ①年間3~4回以上の実施。 ②外部団体等との連携による安全確認の実施 【成果指標】 点検結果等	(1) 生徒・保護者アンケートは教務部が実施しているものを活用した。 (2)・マチコミメールによる生徒・保護者連絡20回実施(1月末) ・携帯メール等の利用回数10回 (3)・個人情報管理調査4月実施 ・コンプライアンス研修9月実施 (4) 7月・12月・2月に安全点検実施	※
② JSLカリキュラムや特別支援教育等に関する研修等の推進、資質向上  (研修推進)	(1)教職員研修の充実 【活動指標】 「授業力向上のための研修」、「外国人生徒や特別な支援の必要な生徒を指導する力を向上させるための研修」、「命を大切にする教育を推進するためにアンガーマネジメントやセルフコントロールトレーニング等に関する研修」等年間3回以上実施 【成果指標】 職員アンケート研修満足度85%以上	(1)授業担当者会議、教職員人権研修会、コンプライアンス研修、ICT研修等を実施。 ・研修満足度 90%	◎
③ 生徒の学習意欲や学力の向上のための、相互参観や研修等教員の授業力向上の推進  (授業改善)	(1)授業改善・教科指導力の向上のための取組 【活動指標】 教員の相互参観による「授業見学シート」を活用した相互研修及びアクティブ・ラーニング等授業研修の実施 【成果指標】 職員アンケート研修満足度85%以上	(1) 5月と11月に「授業公開」の期間を設定し、教員同士が相互研鑽できる機会をつくっている。	◎

<p>④ 総勤務時間の縮減や執務環境整備</p> <p>(職員健康管理) (職場環境改善)</p>	<p>(1)総勤務時間の縮減と環境整備、安心、安全な職場環境づくり</p> <p>【活動指標】 ①定時退校日年間13日の達成率90%以上 ②1時間以内に終了した会議の割合90%以上</p> <p>【成果指標】 総勤務時間の縮減の推進</p> <p>① 1人当たりの月平均時間外労働5時間以下 ② 年間360時間を超える時間外労働者数0人 ③ 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数2人 ④ 1人当たりの年間休暇取得日数20日以上 ⑤ 学校閉校日の設定(8月・12月)年4日</p> <p>(2)執務環境整備と安全、安心な職場環境づくり</p> <p>【活動指標】 パワーハラスメントをはじめとする様々なハラスメントに対する指針の策定及び未然防止対策</p>	<p>・93.8%(11日) ・100%(35回)</p> <p>・2.9時間 ・0人 ・1人 ・12.5日 ・年4日実施</p>	<p>※</p>
---	---	---	----------

#### 改善課題

- ・7月に教科担当者会議を開催し、生徒一人ひとりについて非常勤講師を含めた職員全員による情報共有を行い、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業実践について共通理解を深めている。個々の生徒のニーズに応えるだけの専門的指導力をすべての教員が身に付けていく必要がある。
- ・SNS等のネット上の大きな対人トラブルは発生していないが、社会で多く発生しているスマホトラブルへの注意喚起を引き続き行う必要がある。また、いじめ問題については学習端末等を活用していつでも学校にいじめを伝えられるgoogleフォームを開設して、生徒・保護者に周知した。深刻ないじめ問題は確認されていないが、引き続き注意深く見守っていく必要がある。
- ・学校行事は体育祭、文化祭、生活体験交流会、県生徒交流スポーツ大会、百人一首大会、遠足、修学旅行等、昨年度に比べると実施できるものが増えた。久しぶりの行事開催に、多くの生徒が参加し、満足度も高いと感じている。特に修学旅行は生徒の反響が非常に良かった。今後も生徒会が企画する生徒主体の行事を増やすことや、地元地域の施設を利用した活動等も考えていきたい。
- ・時間外勤務が少ない一方で、業務の多寡の偏りについて不公平感も見られ、多忙感の解消が必要である。業務の精選や効率化を進めるとともに、業務をチームで行う校務体制の構築が課題である。

#### 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯野高校は優秀な人材を社会に送り出す重要な役割を担っている。そのため生徒が安心して社会に出られるような環境整備が必要になる。時間はかかるかもしれないが、地元企業とも連携して、体験活動等の充実を図る必要がある。</li> <li>・定時制は全日制に比べると教員数が少ないので、鈴鹿市内の経験豊かなシニア等の外部人材を活用できるようなプログラムづくりも必要になるのではないかと。多様な人材の活用により、更なる教育の充実を目指してもらいたい。</li> <li>・飯野高校は、様々な背景や事情を持った生徒を幅広く受け入れている。そうして入学した多様な生徒たちの経験や思いを中学生に話す機会をもっとつくってもらいたい。そうすれば鈴鹿市内の中学生も将来に向けて夢を描くことができるようになる。</li> </ul>
----------------------------	--

#### 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>①授業や学校行事、生徒指導等日常の教育活動だけでなく、学校生活全般をとおして規範意識やソーシャルスキル、社会適応力の育成に努める。</p> <p>②学習端末等を効果的に活用した分かりやすい授業の実現ときめ細かい指導によって、生徒一人ひとりの学習意欲を向上させ、退学率の減少に取り組む。</p> <p>③多様な生徒が自らの将来を見すえた進路選択ができるように、卒業生や地域の人材等の外部教育力を取り入れたキャリア教育を推進する。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>①飯野高校定時制の生徒が学校生活を通して感じた思いや経験を地域社会や中学生に向けて積極的に発信できる機会を設けていく。</p> <p>②授業力および専門的指導力の向上、人権教育、ICT活用指導力等、教員のスキルアップのための校内研修や職場のOJTのさらなる充実に取り組む。</p> <p>③生徒の学校生活における満足度について、授業アンケート等の実施だけでなく、個人面談や教育相談等、日々の学校生活における教員との関わりを通して生徒一人ひとりの理解と把握に努める。</p>